

子宮頸がんワクチン接種後の体調不良：2016年度～2018年度当科受診例のまとめ

研究分担者 楠 進 近畿大学医学部内科学講座神経内科部門 教授

研究要旨

子宮頸がんワクチン接種後に体調不良をきたし、2016年4月～2018年9月に当科に紹介された9例について、臨床的特徴を検討した。症状としてはさまざまであるが、痛みと筋力低下の頻度が比較的高かった。ワクチン接種前から、てんかんに罹患していたと考えられる例が存在したが、多くは神経学的診察でobjectiveな異常所見がほとんどみられず、病態を特定するのが難しい症例であり、心因性の病態の可能性も考えられた。心理的要因以外の何らかの病態による症例も含まれる可能性はあるが、ワクチン接種との関連の有無については詳細な検討が必要と考えられた。

A. 研究目的

子宮頸がんワクチン接種後の体調不良について、2016～2018年度における当科の経験をまとめる。

B. 研究方法

子宮頸がんワクチン接種後に体調不良をきたし、2016年4月～2018年9月に当科に紹介された9例について、外来カルテをしらべて臨床的特徴を検討した。

(倫理面への配慮)

通常診療の記録を後方視的に検討したものであり、倫理面の問題は無いと判断した。個人情報保護には特段の配慮を行った。

C. 研究結果

3年間に診療した新規患者数は、平成28年度6名、平成29年度3名、平成30年度0名であった。

患者は15歳から27歳。症状出現は、ワクチン接種の翌日から5年後までさまざまであった。5例ではなんらかの痛みがみられた。握力低下などの筋力低下が4例にみられた。神経学的診察で、objectiveな異常所見はほとんどみられなかった。下肢筋力低下のみられた1例ではHoover徴候が陽性であった。脳波でspike & waveがみられた1例以外は、各種検査で異常はみられなかった。脳波異常のみられた例には、幼稚園の頃に一時デパケンを投与された既往がみられた。また1例では、ワクチン接種前に、精神疾患で精神科受診歴があった。

D. 考察

症状としては、痛みと筋力低下の頻度が比較的高かった。ワクチン接種とは関連のない他の原因疾患が特定できる場合がある。一方で、病態を特定するのが難しい症例も多く、心因性の病態の可能性も考えられた。子宮頸がんワクチン接種との因果関係については、不明と考えられた。

E. 結論

子宮頸がんワクチン接種後の体調不良の症状はさまざまであるが、痛みや筋力低下がみられることが比較的多く、器質的疾患を示唆するobjectiveな神経学的異常所見はほとんどみられなかった。

当科で診療した症例数は少ないが、明らかな原因疾患が特定できない症例では、心理的要因が大きいと考えられる場合が多かった。心理的要因以外の何らかの病態による症例も含まれる可能性はあるが、ワクチン接種との関連の有無については詳細な検討が必要である。

F. 研究発表 (本研究課題に関連したもの)

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし